

3. 結果

収集された2010年7月15日現在入院対象者のうち、19施設439名の集計を以下に詳述する。統計解析にはPASW Statistics ver.18を使用した。

1) 入院処遇日数

2010年7月15日時点入院中の対象者の入院処遇日数は最小値1日～最大値1718日であり、平均483.4日、中央値428日となった。ただしこれはあくまでも当日入院中の対象者の値であ

り、退院までに要した日数ではないことに留意されたい。

2) 共通評価項目中項目の評定

共通評価項目中項目のごとの評定について平均、標準偏差および0点、1点、2点のそれぞれの評定値に対する人数（度数）を表1に示す。なお、以下に記す共通評価項目の評定値は2010年7月15日の直近の治療評価会議によるものである。Nは欠損値13名分を除いた426である。

表1 中項目の評定値

中項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1. 精神病症状	1.38	0.74	66	134	226
2. 非精神病性症状	1.38	0.66	43	180	203
3. 自殺企図	0.21	0.53	363	38	25
4. 内省・洞察	1.56	0.60	24	141	261
5. 生活能力	1.49	0.65	36	145	245
6. 衝動コントロール	1.01	0.83	146	130	150
7. 共感性	0.86	0.54	95	294	37
8. 非社会性	0.53	0.77	275	78	73
9. 対人暴力	0.46	0.80	311	32	83
10. 個人的支援	1.15	0.65	63	236	127
11. コミュニティ要因	1.54	0.66	40	116	270
12. ストレス	1.54	0.55	12	174	240
13. 物質乱用	0.39	0.67	303	78	45
14. 現実的計画	1.87	0.43	15	27	384
15. コンプライアンス	1.17	0.61	49	256	121
16. 治療効果	0.93	0.37	45	365	16
17. 治療・ケアの継続性	1.84	0.43	10	48	368

3) 共通評価項目小項目の評定

共通評価項目の17項目の中項目のうち、「精神病症状」、「非精神病性症状」、「内省・洞察」、「生活能力」、「衝動コントロール」、「非社会性」、「現実的計画」、「治療ケアの継続性」の8つの中項目に属する小項目の評定について平均、標

準偏差および0点、1点、2点のそれぞれの評定値に対する人数（度数）をそれぞれ表2～表9に記した。以下に記す共通評価項目の評定値は中項目同様に2010年7月15日の直近の治療評価会議によるものであるが、Nは欠損値56名分を除いた383である。

表2 精神病症状の小項目の評定値

精神病症状の小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 通常でない思考	1.22	0.85	106	88	189
2) 幻覚に基づいた行動	0.85	0.85	171	97	115
3) 概念の統合障害	0.70	0.79	193	110	80
4) 精神病的しぐさ	0.46	0.68	248	94	41
5) 不適切な疑惑	0.95	0.87	156	92	135
6) 誇大性	0.36	0.68	291	48	44

表3 非精神病性症状の小項目の評定値

非精神病性症状の小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 興奮・躁状態	0.50	0.75	252	71	60
2) 不安・緊張	0.92	0.72	117	181	85
3) 怒り	0.59	0.80	231	77	75
4) 感情の平板化	0.52	0.65	214	137	32
5) 抑うつ	0.26	0.54	302	62	19
6) 罪悪感	0.15	0.44	338	33	12
7) 解離	0.04	0.23	368	13	2
8) 知的障害	0.69	0.81	202	96	85
9) 意識障害	0.04	0.24	370	10	3

表4 内省・洞察の小項目の評定値

内省・洞察の小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 対象行為への内省	1.09	0.62	58	232	93
2) 対象行為以外の他害行為への内省	0.91	0.79	138	141	104
3) 病識	1.22	0.68	55	189	139
4) 対象行為の要因理解	1.42	0.70	47	129	207

表5 生活能力の小項目の評定値

生活能力の小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 生活リズム	0.45	0.64	241	112	30
2) 整容と衛生	0.43	0.66	256	90	37
3) 金銭管理	0.65	0.76	202	114	67
4) 家事や料理	0.76	0.76	168	139	76
5) 安全管理	0.49	0.73	250	80	53
6) 社会資源の利用	0.66	0.80	210	94	79
7) コミュニケーション	0.69	0.71	173	154	56
8) 社会的引きこもり	0.59	0.72	210	121	52
9) 孤立	0.79	0.75	157	151	75
10) 活動性の低さ	0.53	0.67	218	126	39
11) 生産的活動・役割	1.13	0.84	115	104	164
12) 過度の依存	0.30	0.61	298	54	31
13) 余暇を有効に過ごせない	0.58	0.70	207	129	47
14) 施設への過剰適応	0.17	0.45	328	44	11

表6 衝動コントロールの小項目の評定値

衝動コントロールの小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 一貫性のない行動	0.52	0.77	248	71	64
2) 待つことができない	0.39	0.67	273	69	41
3) 先の予測をしない	0.74	0.82	191	102	90
4) そそのかされる	0.33	0.60	283	74	26
5) 怒りの感情の行動化	0.60	0.80	232	74	77

表7 非社会性的小項目の評定値

非社会性的小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 侮辱的な言葉	0.07	0.31	363	14	6
2) 社会的規範の蔑視	0.20	0.52	326	37	20
3) 犯罪志向的態度	0.09	0.36	358	16	9
4) 特定の人を害する	0.16	0.46	338	30	15
5) 他者を脅す	0.11	0.41	354	16	13
6) だます、嘘を言う	0.12	0.36	343	35	5
7) 故意の器物破損	0.08	0.36	362	11	10
8) 犯罪的交友関係	0.07	0.30	364	13	6
9) 性的逸脱行動	0.11	0.39	352	20	11
10) 放火の兆し	0.09	0.40	365	3	15

表8 現実的計画の小項目の評定値

現実的計画の小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 退院後の治療プランへの同意	1.61	0.69	45	58	280
2) 日中活動	1.67	0.66	40	46	297
3) 住居	1.46	0.77	67	71	245
4) 生活費	0.89	0.82	150	124	109
5) 緊急時の対応	1.76	0.60	35	21	327
6) 関係機関との連携・協力体制	1.66	0.66	41	47	295
7) キーパーソン	1.20	0.76	80	148	155
8) 地域への受け入れ体制	1.67	0.67	44	39	300

表9 治療・ケアの継続性的小項目の評定値

治療・ケアの継続性的小項目	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数
1) 治療同盟	0.88	0.79	144	140	99
2) 予防	1.63	0.65	37	67	279
3) モニター	1.67	0.66	40	45	298
4) セルフモニタリング	1.54	0.63	29	118	236
5) 緊急時の対応	1.72	0.59	27	54	302

4) 治療ステージ

7月15日時点の治療ステージの人数比を図1に示す。回復期が46%と最も多く、次いで社会復帰期の36%となった。

- ①治療ステージ毎の共通評価項目中項目の差
治療ステージ毎に共通評価項目の中項目評

点を3群に分け、差の有無を見るために1要因3水準の分散分析を行った。その結果を表10に挙げる。表10に見られるように【物質乱用】のみ治療ステージ間の差が認められないが、他の16項目は1%ないし0.1%水準で有意となった。また多重比較 (Tukey HSD) の結果と各群の平均および標準偏差を表11に挙げる。

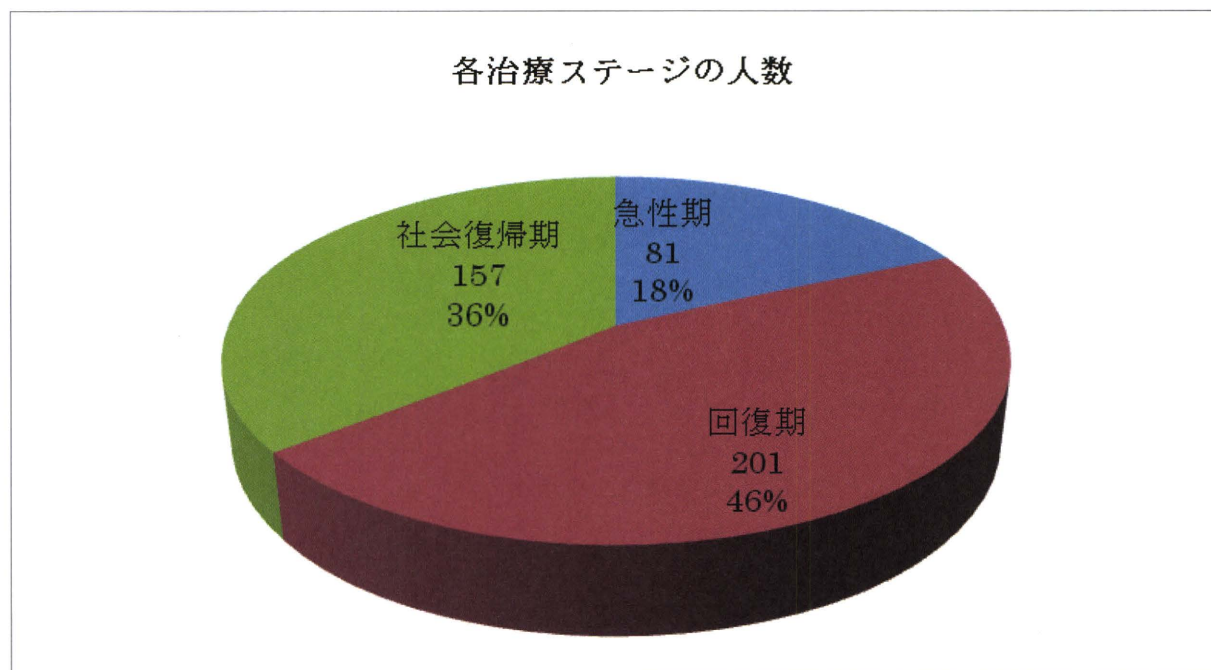


図1 各治療ステージの人数

表10 治療ステージ毎の共通評価項目中項目の差：分散分析結果

中項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
精神病症状	グループ間	37.30	2	18.65	40.54	.000
	グループ内	194.60	423	0.46		
	合計	231.91	425			
非精神病性症状	グループ間	18.16	2	9.08	22.89	.000
	グループ内	167.75	423	0.40		
	合計	185.91	425			
自殺企図	グループ間	3.70	2	1.85	6.74	.001
	グループ内	116.12	423	0.27		
	合計	119.82	425			
内省洞察	グループ間	29.86	2	14.93	51.23	.000
	グループ内	123.28	423	0.29		
	合計	153.15	425			
生活能力	グループ間	25.40	2	12.70	35.10	.000
	グループ内	153.06	423	0.36		
	合計	178.46	425			
衝動コントロール	グループ間	38.05	2	19.02	31.20	.000
	グループ内	257.92	423	0.61		
	合計	295.96	425			

共感性	グループ間	8.14	2	4.07	14.84	.000
	グループ内	115.97	423	0.27		
	合計	124.10	425			
非社会性	グループ間	17.27	2	8.64	15.55	.000
	グループ内	234.94	423	0.56		
	合計	252.22	425			
対人暴力	グループ間	48.67	2	24.34	46.10	.000
	グループ内	223.30	423	0.53		
	合計	271.97	425			
個人的支援	グループ間	6.39	2	3.20	7.77	.000
	グループ内	173.99	423	0.41		
	合計	180.38	425			
コミュニティ要因	グループ間	35.03	2	17.52	49.14	.000
	グループ内	150.79	423	0.36		
	合計	185.82	425			
ストレス	グループ間	8.96	2	4.48	15.65	.000
	グループ内	121.02	423	0.29		
	合計	129.97	425			
物質乱用	グループ間	0.74	2	0.37	0.82	.443
	グループ内	191.01	423	0.45		
	合計	191.75	425			
現実的計画	グループ間	8.36	2	4.18	24.90	.000
	グループ内	71.01	423	0.17		
	合計	79.37	425			
コンプライアンス	グループ間	24.66	2	12.33	39.16	.000
	グループ内	133.17	423	0.31		
	合計	157.83	425			
治療効果	グループ間	3.16	2	1.58	11.98	.000
	グループ内	55.86	423	0.13		
	合計	59.03	425			
治療ケアの継続性	グループ間	9.75	2	4.88	30.60	.000
	グループ内	67.39	423	0.16		
	合計	77.15	425			

表11 治療ステージ毎の共通評価項目中項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

中項目	治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率	
精神病症状	急性期	M	1.77	回復期	0.09	.014
		SD	0.53	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	1.52	急性期	0.09	.014
		SD	0.67	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.00	急性期	0.10	.000
		SD	0.75	回復期	0.07	.000
非精神病性症状	急性期	M	1.72	回復期	0.09	.002
		SD	0.58	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.43	急性期	0.09	.002
		SD	0.62	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.14	急性期	0.09	.000
		SD	0.66	回復期	0.07	.000

自殺企図	急性期	M	0.36	回復期	0.07	.172
		SD	0.71	社会復帰期	0.07	.001
	回復期	M	0.23	急性期	0.07	.172
		SD	0.57	社会復帰期	0.06	.046
	社会復帰期	M	0.10	急性期	0.07	.001
		SD	0.32	回復期	0.06	.046
内省洞察	急性期	M	1.85	回復期	0.07	.132
		SD	0.39	社会復帰期	0.08	.000
	回復期	M	1.71	急性期	0.07	.132
		SD	0.46	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	1.21	急性期	0.08	.000
		SD	0.68	回復期	0.06	.000
生活能力	急性期	M	1.80	回復期	0.08	.064
		SD	0.52	社会復帰期	0.08	.000
	回復期	M	1.62	急性期	0.08	.064
		SD	0.59	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	1.18	急性期	0.08	.000
		SD	0.65	回復期	0.06	.000
衝動コントロール	急性期	M	1.55	回復期	0.11	.000
		SD	0.81	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	1.06	急性期	0.11	.000
		SD	0.80	社会復帰期	0.08	.000
	社会復帰期	M	0.69	急性期	0.11	.000
		SD	0.74	回復期	0.08	.000
共感性	急性期	M	1.04	回復期	0.07	.298
		SD	0.62	社会復帰期	0.07	.000
	回復期	M	0.93	急性期	0.07	.298
		SD	0.48	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	0.69	急性期	0.07	.000
		SD	0.52	回復期	0.06	.000
非社会性	急性期	M	0.79	回復期	0.10	.252
		SD	0.84	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.63	急性期	0.10	.252
		SD	0.81	社会復帰期	0.08	.000
	社会復帰期	M	0.27	急性期	0.11	.000
		SD	0.58	回復期	0.08	.000
対人暴力	急性期	M	1.13	回復期	0.10	.000
		SD	0.93	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	0.45	急性期	0.10	.000
		SD	0.78	社会復帰期	0.08	.000
	社会復帰期	M	0.15	急性期	0.10	.000
		SD	0.50	回復期	0.08	.000
個人的支援	急性期	M	1.23	回復期	0.09	.969
		SD	0.65	社会復帰期	0.09	.023
	回復期	M	1.25	急性期	0.09	.969
		SD	0.64	社会復帰期	0.07	.001
	社会復帰期	M	0.99	急性期	0.09	.023
		SD	0.64	回復期	0.07	.001

コミュニティ要因	急性期	M	1.76	回復期	0.08	.995
		SD	0.52	社会復帰期	0.08	.000
	回復期	M	1.75	急性期	0.08	.995
		SD	0.48	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	1.16	急性期	0.08	.000
		SD	0.75	回復期	0.06	.000
ストレス	急性期	M	1.71	回復期	0.07	.426
		SD	0.56	社会復帰期	0.08	.000
	回復期	M	1.62	急性期	0.07	.426
		SD	0.54	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	1.35	急性期	0.08	.000
		SD	0.52	回復期	0.06	.000
物質乱用	急性期	M	0.48	回復期	0.09	.409
		SD	0.72	社会復帰期	0.09	.623
	回復期	M	0.36	急性期	0.09	.409
		SD	0.64	社会復帰期	0.07	.918
	社会復帰期	M	0.39	急性期	0.09	.623
		SD	0.68	回復期	0.07	.918
現実的計画	急性期	M	1.95	回復期	0.06	.822
		SD	0.32	社会復帰期	0.06	.000
	回復期	M	1.98	急性期	0.06	.822
		SD	0.20	社会復帰期	0.04	.000
	社会復帰期	M	1.68	急性期	0.06	.000
		SD	0.60	回復期	0.04	.000
コンプライアンス	急性期	M	1.53	回復期	0.08	.001
		SD	0.58	社会復帰期	0.08	.000
	回復期	M	1.26	急性期	0.08	.001
		SD	0.56	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	0.88	急性期	0.08	.000
		SD	0.55	回復期	0.06	.000
治療効果	急性期	M	0.99	回復期	0.05	.960
		SD	0.42	社会復帰期	0.05	.003
	回復期	M	1.00	急性期	0.05	.960
		SD	0.28	社会復帰期	0.04	.000
	社会復帰期	M	0.82	急性期	0.05	.003
		SD	0.42	回復期	0.04	.000
治療ケアの継続性	急性期	M	1.91	回復期	0.05	.475
		SD	0.41	社会復帰期	0.06	.000
	回復期	M	1.97	急性期	0.05	.475
		SD	0.20	社会復帰期	0.04	.000
	社会復帰期	M	1.64	急性期	0.06	.000
		SD	0.56	回復期	0.04	.000

表11より、「精神病症状」、「非精神病性症状」、「衝動コントロール」、「対人暴力」、「コンプライアンス」のそれぞれの中項目は急性期>回復期>社会復帰期とそれぞれ有意となり、治療ステージが進むにつれて評定が下がっていることが明らかになった。

また「自殺企図」、「内省・洞察」、「生活能力」、

「共感性」、「非社会性」、「個人的支援」、「コミュニティ要因」、「ストレス」、「現実的計画」、「治療効果」、「治療・ケアの継続性」の中項目は急性期と回復期との間には有意差が認められないが、社会復帰期と急性期および回復期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期では変化が認められないが、回復期

から社会復帰期にかけては評定が下がることが明らかになった。

「物質乱用」は治療ステージ間で評定の差はなかった。

②治療ステージ毎の共通評価項目小項目の差

治療ステージ毎に共通評価項目の小項目得点を3群に分け、差の有無を見るために1要

因3水準の分散分析を行った。また多重比較 (Tukey HSD) の結果と各群の平均および標準偏差を表13に挙げる。各群のNは急性期、回復期、社会復帰期のそれぞれに16件、18件、22件の欠損値があり、急性期=65、回復期=183、社会復帰期=135である。それぞれの小項目の分散分析、多重比較 (Tukey HSD) の結果と各群の平均および標準偏差を表12～表

表12 治療ステージ毎の精神病症状の小項目の差：分散分析結果

精神病症状の小項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1) 通常でない思考	グループ間	42.78	2	21.39	34.70	.000
	グループ内	234.24	380	0.62		
	合計	277.01	382			
2) 幻覚に基づいた行動	グループ間	28.40	2	14.20	21.64	.000
	グループ内	249.41	380	0.66		
	合計	277.81	382			
3) 概念の統合障害	グループ間	11.63	2	5.81	9.69	.000
	グループ内	228.03	380	0.60		
	合計	239.66	382			
4) 精神病的しぐさ	グループ間	6.84	2	3.42	7.64	.001
	グループ内	170.28	380	0.45		
	合計	177.12	382			
5) 不適切な疑惑	グループ間	26.21	2	13.10	18.89	.000
	グループ内	263.64	380	0.69		
	合計	289.85	382			
6) 誇大性	グループ間	4.24	2	2.12	4.70	.010
	グループ内	171.46	380	0.45		
	合計	175.71	382			

表13 治療ステージ毎の精神病症状の小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

従属変数	治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率	
1) 通常でない思考	急性期	M	1.69	回復期	0.11	.010
		SD	0.61	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	1.36	急性期	0.11	.010
		SD	0.83	社会復帰期	0.09	.000
	社会復帰期	M	0.79	急性期	0.12	.000
		SD	0.80	回復期	0.09	.000
2) 幻覚に基づいた行動	急性期	M	1.34	回復期	0.12	.001
		SD	0.89	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	0.91	急性期	0.12	.001
		SD	0.84	社会復帰期	0.09	.000
	社会復帰期	M	0.55	急性期	0.12	.000
		SD	0.73	回復期	0.09	.000

3) 概念の統合障害	急性期	M	0.97	回復期	0.11	.179
		SD	0.85	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	0.77	急性期	0.11	.179
		SD	0.81	社会復帰期	0.09	.004
	社会復帰期	M	0.49	急性期	0.12	.000
		SD	0.69	回復期	0.09	.004
4) 精神病的しぐさ	急性期	M	0.65	回復期	0.10	.388
		SD	0.78	社会復帰期	0.10	.001
	回復期	M	0.52	急性期	0.10	.388
		SD	0.71	社会復帰期	0.08	.007
	社会復帰期	M	0.29	急性期	0.10	.001
		SD	0.54	回復期	0.08	.007
5) 不適切な疑惑	急性期	M	1.32	回復期	0.12	.067
		SD	0.85	社会復帰期	0.13	.000
	回復期	M	1.05	急性期	0.12	.067
		SD	0.86	社会復帰期	0.09	.000
	社会復帰期	M	0.61	急性期	0.13	.000
		SD	0.78	回復期	0.09	.000
6) 誇大性	急性期	M	0.55	回復期	0.10	.130
		SD	0.83	社会復帰期	0.10	.007
	回復期	M	0.37	急性期	0.10	.130
		SD	0.68	社会復帰期	0.08	.248
	社会復帰期	M	0.24	急性期	0.10	.007
		SD	0.57	回復期	0.08	.248

27に挙げる。

表13より、精神病症状の小項目では「1) 通常でない思考」、「2) 幻覚に基づいた行動」の2つが急性期>回復期>社会復帰期とそれぞれ有意となり、治療ステージが進むにつれて評定が下がっていることが明らかになった。

「3) 概念の統合障害」、「4) 精神病的しぐさ」、「5) 不適切な疑惑」の小項目は急性期

と回復期との間には有意差が認められないが、社会復帰期と急性期および回復期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期では変化が認められないが、回復期から社会復帰期にかけては評定が下がることが明らかになった。

「6) 誇大性」は急性期と社会復帰期との間にのみ有意差が認めれた。

表14 治療ステージ毎の非精神病性症状の小項目の差：分散分析結果

非精神病症状の小項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1) 興奮・躁状態	グループ間	22.17	2	11.08	21.76	.000
	グループ内	193.58	380	0.51		
	合計	215.75	382			
2) 不安・緊張	グループ間	8.80	2	4.40	8.78	.000
	グループ内	190.53	380	0.50		
	合計	199.33	382			
3) 怒り	グループ間	29.06	2	14.53	25.87	.000
	グループ内	213.40	380	0.56		
	合計	242.46	382			
4) 感情の平板化	グループ間	5.07	2	2.54	6.24	.002
	グループ内	154.44	380	0.41		
	合計	159.51	382			

5) 抑うつ	グループ間	1.65	2	0.82	2.84	.060
	グループ内	110.25	380	0.29		
	合計	111.89	382			
6) 罪悪感	グループ間	0.85	2	0.43	2.25	.106
	グループ内	71.67	380	0.19		
	合計	72.52	382			
7) 解離	グループ間	0.53	2	0.26	5.08	.007
	グループ内	19.72	380	0.05		
	合計	20.25	382			
8) 知的障害	グループ間	1.01	2	0.51	0.77	.464
	グループ内	250.24	380	0.66		
	合計	251.26	382			
9) 意識障害	グループ間	0.15	2	0.08	1.38	.253
	グループ内	21.18	380	0.06		
	合計	21.33	382			

表15 治療ステージ毎の非精神病性症状の小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

非精神病症状の小項目	治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率	
1) 興奮・躁状態	急性期	M	0.98	回復期	0.10	.000
		SD	0.89	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.49	急性期	0.10	.000
		SD	0.75	社会復帰期	0.08	.020
	社会復帰期	M	0.27	急性期	0.11	.000
		SD	0.54	回復期	0.08	.020
2) 不安・緊張	急性期	M	1.14	回復期	0.10	.261
		SD	0.77	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.98	急性期	0.10	.261
		SD	0.73	社会復帰期	0.08	.005
	社会復帰期	M	0.73	急性期	0.11	.000
		SD	0.64	回復期	0.08	.005
3) 怒り	急性期	M	1.12	回復期	0.11	.000
		SD	0.93	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.61	急性期	0.11	.000
		SD	0.80	社会復帰期	0.09	.001
	社会復帰期	M	0.31	急性期	0.11	.000
		SD	0.57	回復期	0.09	.001
4) 感情の平板化	急性期	M	0.71	回復期	0.09	.258
		SD	0.79	社会復帰期	0.10	.003
	回復期	M	0.56	急性期	0.09	.258
		SD	0.64	社会復帰期	0.07	.038
	社会復帰期	M	0.39	急性期	0.10	.003
		SD	0.55	回復期	0.07	.038
5) 抑うつ	急性期	M	0.35	回復期	0.08	.687
		SD	0.62	社会復帰期	0.08	.079
	回復期	M	0.29	急性期	0.08	.687
		SD	0.58	社会復帰期	0.06	.161
	社会復帰期	M	0.18	急性期	0.08	.079
		SD	0.42	回復期	0.06	.161

6) 罪悪感	急性期	M	0.22	回復期	0.06	.744
		SD	0.52	社会復帰期	0.07	.132
	回復期	M	0.17	急性期	0.06	.744
		SD	0.48	社会復帰期	0.05	.233
	社会復帰期	M	0.09	急性期	0.07	.132
		SD	0.31	回復期	0.05	.233
7) 解離	急性期	M	0.12	回復期	0.03	.028
		SD	0.41	社会復帰期	0.03	.005
	回復期	M	0.04	急性期	0.03	.028
		SD	0.19	社会復帰期	0.03	.636
	社会復帰期	M	0.01	急性期	0.03	.005
		SD	0.12	回復期	0.03	.636
8) 知的障害	急性期	M	0.77	回復期	0.12	.892
		SD	0.84	社会復帰期	0.12	.490
	回復期	M	0.72	急性期	0.12	.892
		SD	0.81	社会復帰期	0.09	.618
	社会復帰期	M	0.63	急性期	0.12	.490
		SD	0.80	回復期	0.09	.618
9) 意識障害	急性期	M	0.06	回復期	0.03	.978
		SD	0.30	社会復帰期	0.04	.390
	回復期	M	0.05	急性期	0.03	.978
		SD	0.27	社会復帰期	0.03	.298
	社会復帰期	M	0.01	急性期	0.04	.390
		SD	0.12	回復期	0.03	.298

表14より、「非精神病性症状」の小項目のうち「5) 抑うつ」、「6) 罪悪感」、「8) 知的障害」、「9) 意識障害」のそれぞれの小項目は各治療ステージ間に有意差が認められなかった。

表15より「1) 興奮・躁状態」、「3) 怒り」の小項目は急性期>回復期>社会復帰期とそれぞれ有意となり、治療ステージが進むにつれて評定が下がっていることが明らかになった。

「2) 不安・緊張」、「4) 感情の平板化」の小項目は急性期と回復期との間には有意差が

認められないが、社会復帰期と急性期および回復期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期では変化が認められないが、回復期から社会復帰期にかけては評定が下がることが明らかになった。

「7) 解離」は回復期と社会復帰期との間には有意差が認められないが、急性期と回復期および社会復帰期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期にかけて評定が下がり、回復期から社会復帰期にかけて変化しないことが明らかになった。

表16 治療ステージ毎の内省・洞察の小項目の差：分散分析結果

内省・洞察の小項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1) 対象行為への内省	グループ間	21.36	2	10.68	32.10	.000
	グループ内	126.44	380	0.33		
	合計	147.80	382			
2) 対象行為以外の他害行為への内省	グループ間	18.01	2	9.00	15.48	.000
	グループ内	220.97	380	0.58		
	合計	238.98	382			

3) 病識	グループ間	20.99	2	10.50	25.80	.000
	グループ内	154.59	380	0.41		
	合計	175.58	382			
4) 対象行為の要因理解	グループ間	34.76	2	17.38	43.33	.000
	グループ内	152.40	380	0.40		
	合計	187.16	382			

表17 治療ステージ毎の内省・洞察の小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

内省・洞察の小項目	治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率	
1) 対象行為への内省	急性期	M	1.43	回復期	0.08	.012
		SD	0.61	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.19	急性期	0.08	.012
		SD	0.57	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	0.79	急性期	0.09	.000
		SD	0.57	回復期	0.07	.000
2) 対象行為以外の他害行為への内省	急性期	M	1.25	回復期	0.11	.052
		SD	0.90	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	0.99	急性期	0.11	.052
		SD	0.76	社会復帰期	0.09	.000
	社会復帰期	M	0.64	急性期	0.12	.000
		SD	0.70	回復期	0.09	.000
3) 病識	急性期	M	1.54	回復期	0.09	.059
		SD	0.69	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	1.33	急性期	0.09	.059
		SD	0.59	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	0.92	急性期	0.10	.000
		SD	0.68	回復期	0.07	.000
4) 対象行為の要因理解	急性期	M	1.74	回復期	0.09	.291
		SD	0.57	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	1.60	急性期	0.09	.291
		SD	0.56	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.01	急性期	0.10	.000
		SD	0.74	回復期	0.07	.000

表17より「内省・洞察」の小項目のうち、「1) 対象行為への内省」は急性期>回復期>社会復帰期とそれぞれ有意となり、治療ステージが進むにつれて評定が下がっていることが明らかになった。

「2) 対象行為以外の他害行為への内省」、「3) 病識」「4) 対象行為の要因理解」の小

項目は急性期と回復期との間には有意差が認められないが、社会復帰期と急性期および回復期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期では変化が認められないが、回復期から社会復帰期にかけては評定が下がることが明らかになった。

表18 治療ステージ毎の生活能力の小項目の差：分散分析結果

生活能力の小項目	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
1) 生活リズム	グループ間	16.13	2	8.06	22.11	.000
	グループ内	138.63	380	0.36		
	合計	154.76	382			

2) 整容と衛生	グループ間	8.89	2	4.44	10.63	.000
	グループ内	158.89	380	0.42		
	合計	167.78	382			
3) 金銭管理	グループ間	11.90	2	5.95	10.79	.000
	グループ内	209.52	380	0.55		
	合計	221.42	382			
4) 家事や料理	グループ間	16.27	2	8.14	15.04	.000
	グループ内	205.63	380	0.54		
	合計	221.90	382			
5) 安全管理	グループ間	18.27	2	9.14	18.93	.000
	グループ内	183.40	380	0.48		
	合計	201.67	382			
6) 社会資源の利用	グループ間	23.57	2	11.78	20.29	.000
	グループ内	220.63	380	0.58		
	合計	244.19	382			
7) コミュニケーション	グループ間	7.19	2	3.60	7.34	.001
	グループ内	186.07	380	0.49		
	合計	193.26	382			
8) 社会的引きこもり	グループ間	24.94	2	12.47	27.57	.000
	グループ内	171.88	380	0.45		
	合計	196.82	382			
9) 孤立	グループ間	28.51	2	14.26	29.14	.000
	グループ内	185.93	380	0.49		
	合計	214.44	382			
10) 活動性の低さ	グループ間	14.13	2	7.06	16.86	.000
	グループ内	159.21	380	0.42		
	合計	173.34	382			
11) 生産的活動・役割	グループ間	31.85	2	15.93	25.13	.000
	グループ内	240.88	380	0.63		
	合計	272.73	382			
12) 過度の依存	グループ間	2.18	2	1.09	2.94	.054
	グループ内	140.69	380	0.37		
	合計	142.87	382			
13) 余暇を有効に過ごせない	グループ間	14.31	2	7.15	15.73	.000
	グループ内	172.85	380	0.45		
	合計	187.16	382			
14) 施設への過剰適応	グループ間	1.14	2	0.57	2.87	.058
	グループ内	75.49	380	0.20		
	合計	76.63	382			

表19 治療ステージ毎の生活能力の小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

生活能力の小項目		治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率
1) 生活リズム	急性期	M	0.88	回復期	0.09	.000
		SD	0.82	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	0.43	急性期	0.09	.000
		SD	0.58	社会復帰期	0.07	.069
	社会復帰期	M	0.27	急性期	0.09	.000
		SD	0.51	回復期	0.07	.069

2) 整容と衛生	急性期	M	0.74	回復期	0.09	.002
		SD	0.80	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	0.42	急性期	0.09	.002
		SD	0.65	社会復帰期	0.07	.172
社会復帰期	M	0.29	急性期	0.10	.000	
	SD	0.56	回復期	0.07	.172	
3) 金銭管理	急性期	M	0.89	回復期	0.11	.272
		SD	0.83	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.73	急性期	0.11	.272
		SD	0.80	社会復帰期	0.08	.001
社会復帰期	M	0.42	急性期	0.11	.000	
	SD	0.60	回復期	0.08	.001	
4) 家事や料理	急性期	M	1.05	回復期	0.11	.163
		SD	0.86	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.85	急性期	0.11	.163
		SD	0.77	社会復帰期	0.08	.000
社会復帰期	M	0.50	急性期	0.11	.000	
	SD	0.61	回復期	0.08	.000	
5) 安全管理	急性期	M	0.89	回復期	0.10	.001
		SD	0.87	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	0.51	急性期	0.10	.001
		SD	0.73	社会復帰期	0.08	.003
社会復帰期	M	0.25	急性期	0.10	.000	
	SD	0.53	回復期	0.08	.003	
6) 社会資源の利用	急性期	M	0.97	回復期	0.11	.223
		SD	0.90	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	0.79	急性期	0.11	.223
		SD	0.82	社会復帰期	0.09	.000
社会復帰期	M	0.33	急性期	0.12	.000	
	SD	0.59	回復期	0.09	.000	
7) コミュニケーション	急性期	M	0.94	回復期	0.10	.082
		SD	0.79	社会復帰期	0.11	.001
	回復期	M	0.72	急性期	0.10	.082
		SD	0.71	社会復帰期	0.08	.061
社会復帰期	M	0.54	急性期	0.11	.001	
	SD	0.63	回復期	0.08	.061	
8) 社会的引きこもり	急性期	M	1.05	回復期	0.10	.000
		SD	0.86	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	0.63	急性期	0.10	.000
		SD	0.71	社会復帰期	0.08	.000
社会復帰期	M	0.30	急性期	0.10	.000	
	SD	0.49	回復期	0.08	.000	
9) 孤立	急性期	M	1.26	回復期	0.10	.000
		SD	0.80	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.85	急性期	0.10	.000
		SD	0.73	社会復帰期	0.08	.000
社会復帰期	M	0.47	急性期	0.11	.000	
	SD	0.61	回復期	0.08	.000	

10) 活動性の低さ	急性期	M	0.91	回復期	0.09	.000
		SD	0.82	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	0.54	急性期	0.09	.000
		SD	0.66	社会復帰期	0.07	.018
	社会復帰期	M	0.34	急性期	0.10	.000
		SD	0.52	回復期	0.07	.018
11) 生産的活動・役割	急性期	M	1.48	回復期	0.11	.215
		SD	0.75	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	1.28	急性期	0.11	.215
		SD	0.81	社会復帰期	0.09	.000
	社会復帰期	M	0.75	急性期	0.12	.000
		SD	0.80	回復期	0.09	.000
12) 過度の依存	急性期	M	0.43	回復期	0.09	.434
		SD	0.71	社会復帰期	0.09	.050
	回復期	M	0.32	急性期	0.09	.434
		SD	0.64	社会復帰期	0.07	.265
	社会復帰期	M	0.21	急性期	0.09	.050
		SD	0.51	回復期	0.07	.265
13) 余暇を有効に過ごせない	急性期	M	0.91	回復期	0.10	.014
		SD	0.80	社会復帰期	0.10	.000
	回復期	M	0.63	急性期	0.10	.014
		SD	0.72	社会復帰期	0.08	.001
	社会復帰期	M	0.36	急性期	0.10	.000
		SD	0.52	回復期	0.08	.001
14) 施設への過剰適応	急性期	M	0.29	回復期	0.06	.079
		SD	0.63	社会復帰期	0.07	.064
	回復期	M	0.15	急性期	0.06	.079
		SD	0.40	社会復帰期	0.05	.968
	社会復帰期	M	0.14	急性期	0.07	.064
		SD	0.39	回復期	0.05	.968

表18より、「生活能力」の小項目のうち「12) 過度の依存」、「14) 施設への過剰適応」の小項目は各治療ステージ間に有意差が認められなかった。

表19より「5) 安全管理」、「8) 社会的引きこもり」、「9) 孤立」、「10) 活動性の低さ」、「13) 余暇を有効に過ごせない」のそれぞれの小項目は急性期>回復期>社会復帰期とそれぞれ有意となり、治療ステージが進むにつれて評定が下がっていることが明らかになった。

「1) 生活リズム」、「2) 整容と衛生」は回復期と社会復帰期との間には有意差が認められないが、急性期と回復期および社会復帰期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期

から回復期にかけて評定が下がり、回復期から社会復帰期にかけて変化しないことが明らかになった。

「3) 金銭管理」、「4) 家事や料理」、「6) 社会資源の利用」、「11) 生産的活動・役割」の小項目は急性期と回復期の間には有意差が認められないが、社会復帰期と急性期および回復期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期では変化が認められないが、回復期から社会復帰期にかけては評定が下がることが明らかになった。

「7) コミュニケーション」は急性期と社会復帰期との間にのみ有意差が認められた。

表20 治療ステージ毎の衝動コントロールの小項目の差：分散分析結果

衝動コントロールの小項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1) 一貫性のない行動	グループ間	14.92	2	7.46	13.58	.000
	グループ内	208.68	380	0.55		
	合計	223.60	382			
2) 待つことができない	グループ間	16.08	2	8.04	19.42	.000
	グループ内	157.38	380	0.41		
	合計	173.47	382			
3) 先の予測をしない	グループ間	19.97	2	9.98	16.19	.000
	グループ内	234.40	380	0.62		
	合計	254.37	382			
4) そそのかされる	グループ間	1.22	2	0.61	1.71	.183
	グループ内	135.33	380	0.36		
	合計	136.55	382			
5) 怒りの感情の行動化	グループ間	28.12	2	14.06	24.49	.000
	グループ内	218.15	380	0.57		
	合計	246.27	382			

表21 治療ステージ毎の衝動コントロールの小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

衝動コントロールの小項目	治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率		
1) 一貫性のない行動	急性期	M	0.94	回復期	0.11	.000	
		SD	0.90	社会復帰期	0.11	.000	
	回復期	M	0.49	急性期	0.11	.000	
		SD	0.75	社会復帰期	0.08	.308	
	社会復帰期	M	0.36	急性期	0.11	.000	
		SD	0.64	回復期	0.08	.308	
	2) 待つことができない	急性期	M	0.85	回復期	0.09	.000
			SD	0.83	社会復帰期	0.10	.000
回復期		M	0.32	急性期	0.09	.000	
		SD	0.62	社会復帰期	0.07	.878	
社会復帰期		M	0.28	急性期	0.10	.000	
		SD	0.57	回復期	0.07	.878	
3) 先の予測をしない		急性期	M	1.20	回復期	0.11	.000
			SD	0.90	社会復帰期	0.12	.000
	回復期	M	0.73	急性期	0.11	.000	
		SD	0.80	社会復帰期	0.09	.064	
	社会復帰期	M	0.53	急性期	0.12	.000	
		SD	0.70	回復期	0.09	.064	
	4) そそのかされる	急性期	M	0.43	回復期	0.09	.535
			SD	0.75	社会復帰期	0.09	.164
回復期		M	0.34	急性期	0.09	.535	
		SD	0.58	社会復帰期	0.07	.536	
社会復帰期		M	0.27	急性期	0.09	.164	
		SD	0.54	回復期	0.07	.536	
5) 怒りの感情の行動化		急性期	M	1.15	回復期	0.11	.000
			SD	0.94	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	0.57	急性期	0.11	.000	
		SD	0.77	社会復帰期	0.09	.031	
	社会復帰期	M	0.36	急性期	0.11	.000	
		SD	0.63	回復期	0.09	.031	

表20より、「衝動コントロール」の小項目のうち「4) そそのかされる」の小項目は各治療ステージ間に有意差が認められなかった。

表21より「5) 怒りの感情の行動化」は急性期>回復期>社会復帰期とそれぞれ有意となり、治療ステージが進むにつれて評定が下がっていることが明らかになった。

「1) 一貫性のない行動」、「2) 待つことが

できない」、「3) 先の予測をしない」のそれぞれは回復期と社会復帰期との間には有意差が認められないが、急性期と回復期および社会復帰期との間にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期にかけて評定が下がり、回復期から社会復帰期にかけて変化しないことが明らかになった。

表22 治療ステージ毎の非社会性の小項目の差：分散分析結果

非社会性の小項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1) 侮辱的な言葉	グループ間	0.27	2	0.14	1.44	.237
	グループ内	35.96	380	0.09		
	合計	36.23	382			
2) 社会的規範の蔑視	グループ間	1.46	2	0.73	2.77	.064
	グループ内	100.06	380	0.26		
	合計	101.52	382			
3) 犯罪志向的態度	グループ間	0.42	2	0.21	1.64	.196
	グループ内	48.56	380	0.13		
	合計	48.98	382			
4) 特定の人を害する	グループ間	3.34	2	1.67	8.21	.000
	グループ内	77.26	380	0.20		
	合計	80.60	382			
5) 他者を脅す	グループ間	1.93	2	0.96	5.96	.003
	グループ内	61.47	380	0.16		
	合計	63.39	382			
6) だます、嘘を言う	グループ間	0.10	2	0.05	0.39	.678
	グループ内	49.61	380	0.13		
	合計	49.71	382			
7) 故意の器物破損	グループ間	0.96	2	0.48	3.85	.022
	グループ内	47.53	380	0.13		
	合計	48.49	382			
8) 犯罪的交友関係	グループ間	0.28	2	0.14	1.49	.226
	グループ内	35.09	380	0.09		
	合計	35.37	382			
9) 性的逸脱行動	グループ間	1.18	2	0.59	3.86	.022
	グループ内	58.21	380	0.15		
	合計	59.39	382			
10) 放火の兆し	グループ間	1.56	2	0.78	5.05	.007
	グループ内	58.60	380	0.15		
	合計	60.16	382			

表23 治療ステージ毎の非社会性の小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

非社会性の小項目	治療ステージ			治療ステージ	標準誤差	有意確率
1) 侮辱的な言葉	急性期	M	0.12	回復期	0.04	.399
		SD	0.45	社会復帰期	0.05	.209
	回復期	M	0.07	急性期	0.04	.399
		SD	0.31	社会復帰期	0.03	.817
	社会復帰期	M	0.04	急性期	0.05	.209
		SD	0.21	回復期	0.03	.817
2) 社会的規範の蔑視	急性期	M	0.32	回復期	0.07	.234
		SD	0.64	社会復帰期	0.08	.050
	回復期	M	0.20	急性期	0.07	.234
		SD	0.51	社会復帰期	0.06	.542
	社会復帰期	M	0.14	急性期	0.08	.050
		SD	0.44	回復期	0.06	.542
3) 犯罪志向的態度	急性期	M	0.12	回復期	0.05	.961
		SD	0.41	社会復帰期	0.05	.313
	回復期	M	0.11	急性期	0.05	.961
		SD	0.40	社会復帰期	0.04	.247
	社会復帰期	M	0.04	急性期	0.05	.313
		SD	0.24	回復期	0.04	.247
4) 特定の人を害する	急性期	M	0.31	回復期	0.07	.148
		SD	0.64	社会復帰期	0.07	.000
	回復期	M	0.19	急性期	0.07	.148
		SD	0.50	社会復帰期	0.05	.017
	社会復帰期	M	0.04	急性期	0.07	.000
		SD	0.21	回復期	0.05	.017
5) 他者を脅す	急性期	M	0.25	回復期	0.06	.062
		SD	0.56	社会復帰期	0.06	.002
	回復期	M	0.11	急性期	0.06	.062
		SD	0.42	社会復帰期	0.05	.205
	社会復帰期	M	0.04	急性期	0.06	.002
		SD	0.26	回復期	0.05	.205
6) だます、嘘を言う	急性期	M	0.14	回復期	0.05	.967
		SD	0.39	社会復帰期	0.05	.720
	回復期	M	0.13	急性期	0.05	.967
		SD	0.36	社会復帰期	0.04	.754
	社会復帰期	M	0.10	急性期	0.05	.720
		SD	0.34	回復期	0.04	.754
7) 故意の器物破損	急性期	M	0.18	回復期	0.05	.088
		SD	0.50	社会復帰期	0.05	.016
	回復期	M	0.08	急性期	0.05	.088
		SD	0.37	社会復帰期	0.04	.588
	社会復帰期	M	0.04	急性期	0.05	.016
		SD	0.23	回復期	0.04	.588
8) 犯罪的交友関係	急性期	M	0.03	回復期	0.04	.334
		SD	0.17	社会復帰期	0.05	.952
	回復期	M	0.09	急性期	0.04	.334
		SD	0.36	社会復帰期	0.03	.339
	社会復帰期	M	0.04	急性期	0.05	.952
		SD	0.27	回復期	0.03	.339

9) 性的逸脱行動	急性期	M	0.22	回復期	0.06	.177
		SD	0.57	社会復帰期	0.06	.016
	回復期	M	0.11	急性期	0.06	.177
		SD	0.40	社会復帰期	0.04	.333
	社会復帰期	M	0.05	急性期	0.06	.016
		SD	0.25	回復期	0.04	.333
10) 放火の兆し	急性期	M	0.20	回復期	0.06	.173
		SD	0.59	社会復帰期	0.06	.005
	回復期	M	0.10	急性期	0.06	.173
		SD	0.42	社会復帰期	0.04	.147
	社会復帰期	M	0.01	急性期	0.06	.005
		SD	0.17	回復期	0.04	.147

表22より、「非社会性」の小項目のうち「1) 侮辱的な言葉」、「2) 社会的規範の蔑視」、「3) 犯罪志向的態度」、「6) だます、嘘を言う」、「8) 犯罪的交友関係」のそれぞれは各治療ステージ間に有意差が認められなかった。

表23より「4) 特定の人を害する」は急性期と回復期との間には有意差が認められないが、急性期および回復期と社会復帰期との間

にそれぞれ有意差が認められ、急性期から回復期にかけては変化しないが、回復期から社会復帰期にかけて評定が下がることが明らかになった。

「5) 他者を脅す」、「7) 故意の器物破損」、「9) 性的逸脱行動」、「10) 放火の兆し」は急性期と社会復帰期との間に有意差が認められた。

表24 治療ステージ毎の現実的計画の小項目の差：分散分析結果

現実的計画の小項目		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1) 退院後の治療プランへの同意	グループ間	46.62	2	23.31	66.01	.000
	グループ内	134.19	380	0.35		
	合計	180.81	382			
2) 日中活動	グループ間	29.35	2	14.67	41.24	.000
	グループ内	135.20	380	0.36		
	合計	164.55	382			
3) 住居	グループ間	30.66	2	15.33	29.33	.000
	グループ内	198.62	380	0.52		
	合計	229.27	382			
4) 生活費	グループ間	8.08	2	4.04	6.23	.002
	グループ内	246.53	380	0.65		
	合計	254.61	382			
5) 緊急時の対応	グループ間	15.97	2	7.99	24.59	.000
	グループ内	123.41	380	0.32		
	合計	139.38	382			
6) 関係機関との連携・協力体制	グループ間	24.88	2	12.44	33.13	.000
	グループ内	142.67	380	0.38		
	合計	167.55	382			
7) キーパーソン	グループ間	7.52	2	3.76	6.72	.001
	グループ内	212.79	380	0.56		
	合計	220.31	382			
8) 地域への受け入れ体制	グループ間	31.42	2	15.71	42.20	.000
	グループ内	141.47	380	0.37		
	合計	172.89	382			

表25 治療ステージ毎の現実的計画の小項目の差：Tukey HSDの多重比較結果

現実的計画の小項目	治療ステージ		治療ステージ	標準誤差	有意確率	
1) 退院後の治療プランへの同意	急性期	M	1.86	回復期	0.09	.988
		SD	0.50	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.87	急性期	0.09	.988
		SD	0.41	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.14	急性期	0.09	.000
		SD	0.81	回復期	0.07	.000
2) 日中活動	急性期	M	1.85	回復期	0.09	.893
		SD	0.51	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.89	急性期	0.09	.893
		SD	0.41	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.30	急性期	0.09	.000
		SD	0.81	回復期	0.07	.000
3) 住居	急性期	M	1.69	回復期	0.10	.967
		SD	0.68	社会復帰期	0.11	.000
	回復期	M	1.67	急性期	0.10	.967
		SD	0.62	社会復帰期	0.08	.000
	社会復帰期	M	1.08	急性期	0.11	.000
		SD	0.86	回復期	0.08	.000
4) 生活費	急性期	M	1.18	回復期	0.12	.032
		SD	0.86	社会復帰期	0.12	.001
	回復期	M	0.89	急性期	0.12	.032
		SD	0.81	社会復帰期	0.09	.302
	社会復帰期	M	0.76	急性期	0.12	.001
		SD	0.77	回復期	0.09	.302
5) 緊急時の対応	急性期	M	1.85	回復期	0.08	.532
		SD	0.54	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.93	急性期	0.08	.532
		SD	0.34	社会復帰期	0.06	.000
	社会復帰期	M	1.49	急性期	0.09	.000
		SD	0.79	回復期	0.06	.000
6) 関係機関との連携・協力体制	急性期	M	1.82	回復期	0.09	.850
		SD	0.56	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.86	急性期	0.09	.850
		SD	0.42	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.32	急性期	0.09	.000
		SD	0.83	回復期	0.07	.000
7) キーパーソン	急性期	M	1.26	回復期	0.11	.889
		SD	0.85	社会復帰期	0.11	.064
	回復期	M	1.31	急性期	0.11	.889
		SD	0.73	社会復帰期	0.08	.001
	社会復帰期	M	1.01	急性期	0.11	.064
		SD	0.72	回復期	0.08	.001
8) 地域への受け入れ体制	急性期	M	1.83	回復期	0.09	.738
		SD	0.55	社会復帰期	0.09	.000
	回復期	M	1.90	急性期	0.09	.738
		SD	0.39	社会復帰期	0.07	.000
	社会復帰期	M	1.28	急性期	0.09	.000
		SD	0.84	回復期	0.07	.000